

今の世の中、なんとなく不安で、落ち着かない。ことに高齢者はそのことを敏感に感じて、それで体調を崩しやすくなるだろうか。

73歳のKさん。3年前に、奥さんを脳梗塞で亡くしている。1カ月前から、首や肩が凝って頭がボーっとする。体がだるくて、熱っぽい。かかつけいで血液検査もしたが、「身体はどこも悪くない。気のせいかな?」と言われた。が、「私も、脳梗塞では?」と深刻なのである。

ワッシーも、話を聞いただけで、Kさんの訴えは「不定愁訴」を疑う。不定愁訴とは、身体的にはどこにも異常はない。でも、理屈に合わない症状が色々と出てくる。「木の芽時」には、患者さんが増える。気温差や環境の変化などのストレスが原因で起きる自律神経の乱れで説明されているようだ。が、この頃は、季節に関係なく、高齢者の不定愁訴が増えたように思える。

長く続くコロナ禍や、温暖化による環境の変化、不安定な国際情勢、円安やインフの不安に個人の健康問題等々と、高齢者の不安材料は増えるだけだ。といって、気のせいだとか、ストレスによるものだとい

う説明だけでは、なかなか患者さんは納得できないのである。不安を抱えたまま、あちこちの医療機関を訪ね歩くことになる。が、どこでも同じことを言われる。と、それが更に不安やストレスの元になり、症状が増悪するという悪循環が生み出されるようである。

さて、ワッシーだって、Kさんの病気の原因が頭の中にはないとは分かっている。でも、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査はする。で、頭の中には異常がないと納得できたKさん。すっかり元気になったではないか。高齢者は、病気をこころのせいなどと簡単に扱われたくないのだ。無力な医者には、精密検査をして分かってもらおうという能力がない。

（石黒修三 いしへろクリニック・脳神経

外科医…9/26 北國新聞掲載）